



「秋風に たなびく雲の 絶え間より もれいづる月の 影のさやけさ」

(秋風によって雲がたなびき、その絶え間から漏れ出でてくる月の光が、何とまあ明るく、清らかなことだろう 左京太夫顕輔)

これから秋も本格的に深まってきます。秋には、「読書の秋」「芸術の秋」「スポーツの秋」「食欲の秋」等、生活の中に様々な喜びがあります。じっくりとこの季節を楽しみたいものですね。

「恕の精神」

恕

皆さんは、左記の漢字を今まで見られたことがあるでしょうか？

読み方は「じょ」と読みます。

意味は 他を受け入れ、認め、許し、
その気持ちを思いやること ことです。

「論語」は、皆さんも中学時代に習った覚えがあるでしょう。その論語の中に次のような一文があります。

子貢問ひて曰く、一言にして以て終身之を行ふ可き者有りやと。

子曰く、其れ恕か。己の欲せざる所は、人に施すこと勿れと

子貢（孔子の弟子）は聞いた、「たった一言で、一生それを守っておれば間違いない人生が送れる、そういう言葉がありますか」と。

孔子は答えた、「それは恕であろう。自分にして欲しくないことは人にしてはならない」と。

“自分がされたくないことは人にはしてはならない、それが恕だ”と孔子は答えています。他を受け入れ、認め、許し、その気持ちを思いやる。自分のことと同じように他の人のことを考える。そのことこそが、人が生きていく上で一番大切なことだと孔子は言っています。

震災の時、自分もおなかですいているのに、自分の分の食べ物を人に差し出したり、自分も困っているのに人に手を差し延べる姿がたくさん見られたと聞いています。まさにそのような大変な状況の中でお互いが助け合う、「恕の精神」に満ちた行動があったのでしょう。そして、そのような日本人の姿を外国の人たちは賞賛しました。

しかし、最近は逆に痛ましい、こんなことがあってもいいのだろうかという事件が数々起きています。少しでも自分のことのように相手のことを思い、相手を大切にする「恕の精神」があれば起こりえなかった事件です。

今は、「自分さえ良ければ良い」と考える人が多いように思います。この考えは間違っています。この世の中は、自分一人では幸せにはなれません。他の人が感じる幸せの中に、本当の自分の幸せがあるのだと思います。「恕の精神」で人に接することにより、相手が温かい気持ちになり、そのことが自分に返ってくることで自分も幸せを感じることができるのです。そんな本当の喜びや幸せを感じることができる「恕の精神」をもった子どもに育てたいものです。

(文責＝青少年育成センター指導員 藤村)